

【今日の説教から】

先週は1コリント12章から、私たちは皆一つ体であるという事を聖書から学びました。

「からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うため…もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。あなたがたはキリストのからだであり、ひとりひとりはその肢体である。」

キリストはこの体一つまり信じるようにと恵みによって導かれた私たちを愛し、その尊い命をもって贋い、私たちを正なる主のお体の一部分としてくださいました。頭なる主に感謝をささげ、一つ身体が支え合い、高め合い、助け合い、互いに満たすのです。このような素晴らしい共同体がほかにあるでしょうか。

「主よ、いま、…僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい。…使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった。」

この御言葉に、主イエス様につながる共同体の命と躍動を感じます。

1コリント13章の有名な御言葉はこう語ります。

「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」

いつまでも存続する愛を受け、伝えたいと願います。

皆様、おはようございます。

少し雨が続きましたが、また猛烈な暑さが戻ってきました。皆様お元気にお過ごしでいらっしゃいましたか。

先週は1コリント12章から、私たちは皆一つ体であるという事を聖書から学びました。

「からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うため…もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。あなたがたはキリストのからだであり、ひとりひとりはその肢体である。」

キリストはこの体一つまり信じるようにと恵みによって導かれた私たちを愛し、その尊い命をもって贋い、私たちを聖なる主のお体の一部分としてくださいました。頭なる主に感謝をささげ、一つ身体が支え合い、高め合い、助け合い、互いに満たすのです。このような素晴らしい共同体がほかにあるでしょうか。

コロサイ1:16 万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。

1:17 彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。

1:18 そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。

「主よ、いま、…僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい。彼らが祈り終えると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。…使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった。」この御言葉に、主イエス様につながる共同体の命と躍動を感じます。

4:32 信じた者の群れは、心を一つにし思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものだと主張する者がなく、いっさいの物を共有にしていた。

4:33 使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。

4:34 彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった。

イエス様の弟子たちは、イエス様と聖霊の力によって証しし、力ある業と奇跡とを行うために召されていました。私たちの教会も、その流れを引いています。私たちのうちの多くは主の弟子たちのようにすべての仕事をなげうって専心主を証ししているわけではありませんが、パウロはテントを作りながら世界宣教の働きをしていました。

使徒 18:1 その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。

18:2 そこで、アクラというポンタ生れのユダヤ人と、その妻プリスキラとに出会った。クラウデオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるようにと、命令したため、彼らは近ごろイタリヤから出てきたのである。

18:3 パウロは彼らのところに行ったが、互に同業であったので、その家に住み込んで、一緒に仕事をした。天幕造りがその職業であった。

使徒 6 章にはこのような御言葉があります。

6:1 そのころ、弟子の数がふえてくるにつれて、ギリシャ語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して、自分たちのやもめらが、日々の配給で、おろそかにされがちだと、苦情を申し立てた。

6:2 そこで、十二使徒は弟子全体を呼び集めて言った、「わたしたちが神の言をさしあいて、食卓のことには携わるのはおもしろくない。

6:3 そこで、兄弟たちよ、あなたがたの中から、御靈と知恵とに満ちた、評判のよい人たち七人を搜し出してほしい。その人たちにこの仕事をまかせ、

6:4 わたしたちは、もっぱら祈と御言のご用に当ることにしよう」。

6:5 この提案は会衆一同の賛成するところとなった。そして信仰と聖靈とに満ちた人ステパノ、それからピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、およびアンテオケの改宗者ニコラオを選び出して、

6:6 使徒たちの前に立たせた。すると、使徒たちは祈って手を彼らの上においた。

6:7 こうして神の言は、ますますひろまり、エルサレムにおける弟子の数が、非常にふえていき、祭司たちも多数、信仰を受けいれるようになった。

6:8 さて、ステパノは恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡としとを行っていた。

ステパノは執事として、使徒たちが祈りと御言葉の働きをするために食べ物の世話をするために選ばれたのですが、この後目覚ましい伝道をしていくという事は興味深い真実です。

このように、パウロは専心宣教に励む者として召されながらも、働くという模範のために働きをもしていたという事が2テサロニケの3章に示されています。

2テサロニケ 3:7 わたしたちに、どうならうべきであるかは、あなたがた自身が知っているはずである。あなたがたの所にいた時には、わたしたちは怠惰な生活をしなかったし、

3:8 人からパンをもらって食べることもしなかった。それどころか、あなたがたのだれにも負担をかけまいと、日夜、労苦し努力して働き続けた。

3:9 それは、わたしたちにその権利がないからではなく、ただわたしたちにあなたがたが見習うように、身をもって模範を示したのである。

先週の1コリント12章の御言葉を振り返り、その後の聖書の話の流れを読み進めたいと思います。

1コリント 12:18 そこで神は御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに備えられたのである。

12:19 もし、すべてのものが一つの肢体なら、どこにからだがあるのか。

12:20 ところが実際、肢体は多くあるが、からだは一つなのである。

12:21 目は手にむかって、「おまえはいらない」とは言えず、また頭は足にむかって、「おまえはいらない」とも言えない。

12:22 そうではなく、むしろ、からだのうちで他よりも弱く見える肢体が、かえって必要なのであり、

12:23 からだのうちで、他よりも見劣りがすると思えるところに、ものを着せていっそう見よくする。麗しくない部分はいっそう麗しくするが、

12:24 麗しい部分はそうする必要がない。神は劣っている部分をいっそう見よくして、からだに調和をお与えになったのである。

12:25 それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。

12:26 もし一つの肢体が悩み、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。

12:27 あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。

12:28 そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおされた。

12:29 みんなが使徒だろうか。みんなが預言者だろうか。みんなが教師だろうか。みんなが力あるわざを行う者だろうか。

12:30 みんながいやしの賜物を持っているのだろうか。みんなが異言を語るのだろうか。みんなが異言を解くのだろうか。

12:31 だが、あなたがたは、更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう。

体にいろいろな部分があるというたとえは、このような解釈に帰着していきます。

すなわち、キリスト者としての働きの種類が記されています。

しかし、次の13章では、またこの違いが一つの方向へと収斂され、まとめられていきます。

13:1 たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鎧鉢と同じである。

13:2 たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。

13:3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めるない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

13:9 なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。

13:10 全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13:11 わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなつた今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

13:12 わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

愛こそが価値あるという事です。色々な賜物や目覚ましい働きはあれど、どんな奇跡も、英雄的な行いも、愛がなければむなしいという事です。

そして今日の御言葉は、共同体の中の愛について記されているのです。

4:32 信じた者の群れは、心を一つにし思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものだと主張する者がなく、いっさいの物を共有にしていた。

4:33 使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。

信じた者の群れは、心を、つまり精神と意志と、願いと意向、そして命そのもの、自分の最も大切な心の奥底の本音の部分、自分の内奥、確信、命までも共有していました。それは彼らがイエス様の死と復活を共有し、イエス様の永遠の命を共有していたからにはかなりません。天で永遠に住まう。この恵みを得て、この生きる生活の最中でも、主の奇跡を体験しているのならば、私たちは何を畏れ、何に賭けることがあるでしょうか。その上は、信仰にある家族のことを本心から憂い、心配して、一つ家族、一つ身体として支え合っていく。ここに強力な共同体がありました。

4:34 彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった。地所や家屋を持っている人々は、それを売り、売った物の代金をもってきて、

4:35 使徒たちの足もとに置いた。そしてそれぞれの必要に応じて、だれにでも分け与えられた。

4:36 クプロ生れのレビ人で、使徒たちにバルナバ（「慰めの子」との意）と呼ばれていたヨセフは、

4:37 自分の所有する畑を売り、その代金をもってきて、使徒たちの足もとに置いた。

これが愛の共同体であり、ここから確信が生まれ、語らずにはいられない勢いが生まれました。

1コリント 13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

いつまでも存続して、勢いをもって進んでいく。これがキリストの愛であり、私たちの愛の共同体なのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。力強いキリストの群れの姿と、その源泉について、キリストの愛がすべてを覆っていることをお教えくださいまして、ありがとうございます。「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」この愛のため、イエス様を今週も証しさせてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン